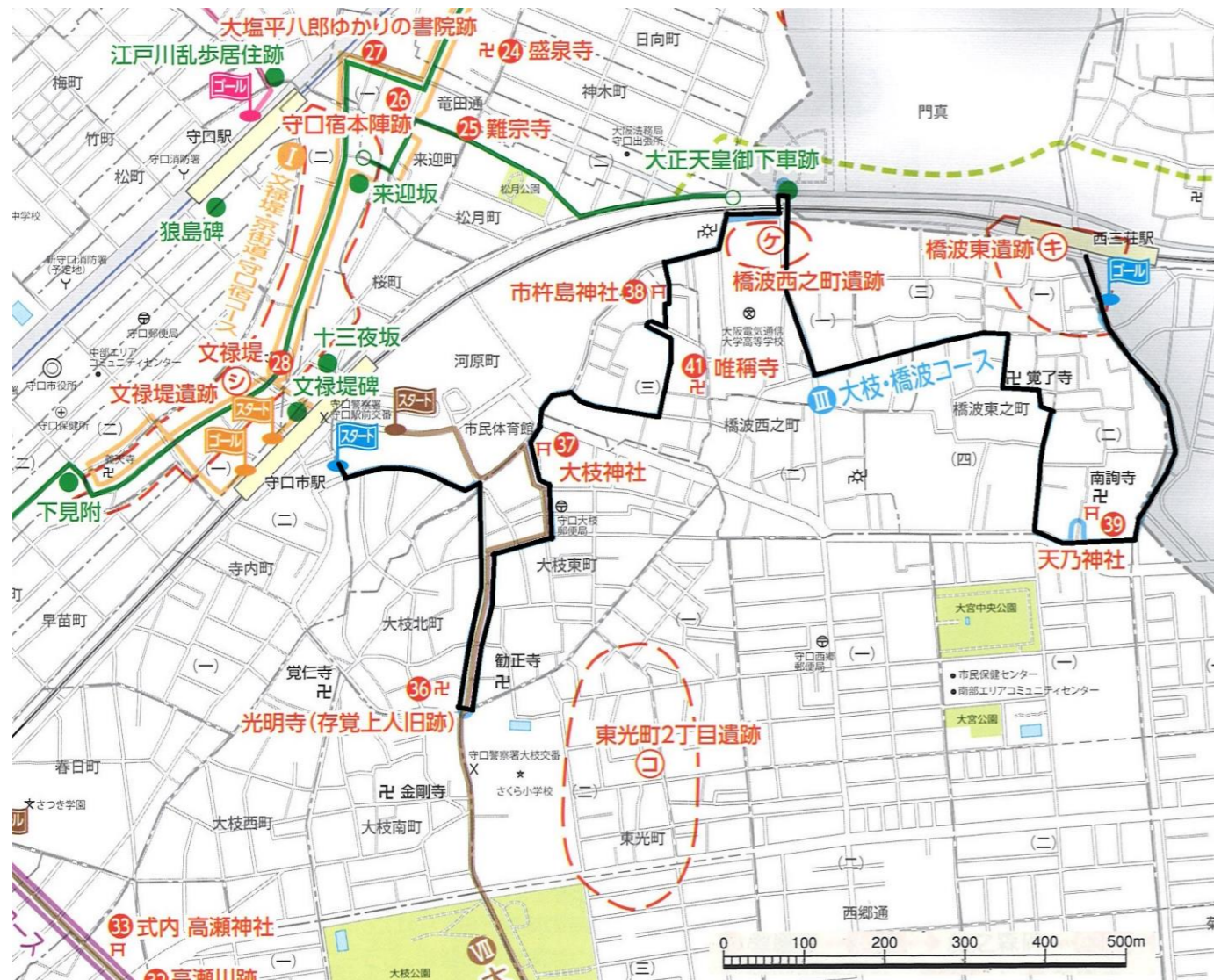


もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースⅢ (らくらく)

大枝・橋波コース



スタート 京阪電車守口市駅 - (470m) - ③⑥(大枝)光明寺(存覚上人旧跡) - (400m) - ③⑦大枝神社 - (300m) - ④①唯稱寺 - (100m) - ③⑧市杵島神社 - (240m) - 〇大正天皇御下車跡 - (720m) - ③⑨天乃神社 - (400m) - ゴール 京阪電車西三荘駅 (全 2,630m)

(〇番号は守口文化財ガイドマップと共通)



(おおえだ) こうみょうじ ぞんかくしょうにんきゅうせき
③⑥ (大枝)光明寺 (存覚上人旧跡)



おおえだじんじゃ
③⑦大枝神社



ゆいしょうじ
④①唯稱寺



いちきまじんじゃ
③⑧市杵島神社



たいしょうてんのう おげしゃあとひ
〇大正天皇御下車跡碑



あまのじんじゃ
③⑨天乃神社

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

こうみょうじ ぞんかくしょうにんぎゅうせき

③⑥(大枝)光明寺(存覚上人旧跡)

光明寺は行基創建の高瀬寺塔頭の後裔とも伝えられる寺院です。

その後、南北朝時代に、浄土真宗本願寺三世宗主覚如上人の長男(親鸞上人の曾孫)存覚上人が、観応元年(1350)に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた光明寺を再興し、教えを広めたと伝えられています。このことから当寺は北河内地方で最古の浄土真宗寺院でもあるといえます。

境内のイチョウやクスノキの古樹も見ごたえがあります。



存覚上人旧跡碑



(大枝)光明寺山門



(大枝)光明寺境内

おおえだじんじゃ

③⑦大枝神社

祭神は誉田別尊(応神天皇)で、境内には末社の高吉稲荷神、ならびに東照大権現が祀られています。

創建年代は不明ですが、境内の燈籠には元禄16年(1703)と文政8年(1825)、石鳥居は正徳3年(1713)、狛犬は文化2年(1805)、常夜燈は文化10年(1813)の紀年銘があり、江戸時代中期にはすでに存在していたとみられています。

境内にある大クスノキも大変見事です。



境内のクスノキ



大枝神社本殿

○周辺の遺跡(東光町2丁目遺跡)

井戸の跡かと考えられる遺構内から、鎌倉時代の土師器羽釜が出土しています。



土師器羽釜

ゆいしょうじ

④①唯稱寺

浄土真宗大谷派で、本尊の阿弥陀如来立像は室町時代末期～江戸時代初期の彫像とみられ、市内の真宗寺院では最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つといわれています。現本堂の建立は、寛政7年(1795)寄進の喚鐘の事を記した木札があることなどから、この時期をあまり遡らない頃と推定されています。

当初は、藁葺の屋根で外観が民家と変わらない集会所的な建物だったが、恵明の時代に至り(19世紀中頃)上位の真宗寺院内陣正面の構えを取り入れ、真宗の本堂としての形に整えられました。

たいしょうてんのうおげしやあとひ

○大正天皇御下車跡碑

明治43年(1910)10月、大正天皇が皇太子時代に、淀川で行われた工兵特別大演習の視察のため、京阪電車で守口に來られたが、淀川に近い駅がないため、守口-門真間に仮設の駅が設営されました。それがこの場所と言われています。演習を視察したのは守口市新橋寺町の淀川堤上で、現在、その場所には御野立所碑があります。

大正天皇が仮設駅から淀川まで行くために、この時に現在の竜田通が整備されたと伝えられます。

いちきじまじんじゃ

③⑧市杵島神社

橋波西之町の北西部、唯稱寺の北側に鎮座する。祭神は市杵島姫命です。民家に挟まれた細い参道の先に境内地があり、地元では「弁天さん」と呼ばれています。

市杵島姫は宗像三女神の一柱で、皇孫邇邇芸命を養育したことから、子供の守護神として崇敬されています。のちの神仏習合では弁財天とされています。

あまのじんじゃ

③⑨天乃神社

祭神は素戔鳴尊・誉田別尊・菅原道真公で、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていた。寛文10年(1670)に当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を改築したとされています。

現本、殿内に安置されている旧本殿は、柿葺一間社春日造で、向拝に臺股2箇を並べた類例のない形式で、江戸時代初期を下らない特徴がよく示されている貴重な建造物です。



天乃神社境内

○周辺の遺跡(橋波東之町遺跡)

弥生時代の甕の破片、平安時代の墨書土師器、中世の下駄やしちもじなど、弥生時代～近世に至る遺物が出土しています。



墨書土師器の出土状況